

第247回地震予知連絡会（令和7年5月20日）各機関からの提出議題

【1】気象庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国M5.0以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2025年2月～2025年4月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 福島県沖の地震（2月21日 M4.9）

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 全国GNSS観測点のプレート沈み込み方向の位置変化

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

(S) 紀伊半島西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（3月17日～22日）

(S) 東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（4月9日～11日）

(S) 紀伊半島中部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（4月27日～）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（2月2日～4日）

(S) 四国中部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（2月20日～3月2日）

(S) 四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（3月24日～29日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（4月22日～）

(O) 大隅半島東方沖の地震（4月2日 M6.1）

要旨：2025年4月2日23時03分に大隅半島東方沖の深さ36kmでM6.1の地震（最大震度4）が発生した。

この地震は、発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の震源付近では、3月29日にM4.6の地震（最大震度3）が発生している。

4. その他の地殻活動等

(S) 北海道南西沖の地震（4月5日 M4.1）

(O) 「令和6年能登半島地震」（最大規模の地震：2024年1月1日 M7.6、期間中の最大規模の地震：2月24日 M4.9）

要旨：能登半島では2020年12月から地震活動が活発になっており、2023年5月5日にはM6.5の地震（最大震度6強）が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震（最大震度7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、M7.6の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日にM6.6の地震（最大震度5弱）が発生し、震度1以上を観測した地震が2月は25回、3月は12回、4月は12回発生するなど活発な状態が続いている。なお、今期間中の最大規模の地震は、2月24日04時08分に石川県西方沖で発生したM4.9の地震（最大震度3）である

(S) 愛知県西部の地震（4月8日 M4.6）

(O) 長野県北部の地震（4月18日 20時19分 M5.0、23時39分 M4.5、19日 M4.3）

要旨：2025年4月18日20時19分に長野県北部の深さ13kmでM5.1の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震の発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。また、同日23時39分にM4.5の地震及び19日01時02分にM4.3の地震が発生し、どちらも最大震度4を観測した。18日20時19分M5.1の地震が発生する前から地震活動がみられ、18日から30日までに震度1以上を観測した地震が65回発生した。これらの地震は地殻内で発生した。

- (S) 山口県北部の地震活動（最大規模の地震：3月9日 M1.8）
- (S) 奄美大島北東沖の地震（2月4日 M5.2）
- (S) 奄美大島北東沖の地震（3月9日 03時54分 M5.8、08時42分 M5.9）
- (S) 熊本県熊本地方の地震（3月18日 M4.8）
- (S) 大分県中部の地震活動（最大規模の地震：4月18日 M3.7）
- (S) 与那国島近海の地震（4月9日 M5.4）
- (S) ホンジュラス北方の地震（2月9日 Mw7.6）
- (O) ミャンマーの地震（3月28日 Mw7.7）

要旨：2025年3月28日15時20分（日本時間、以下同じ）にミャンマーの深さ10kmでMw7.7の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。気象庁は、この地震に対して、同日15時47分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。この地震により、ミャンマーで死者約3,800人、行方不明者約100人、タイで死者23人などの大きな被害が生じた（令和7年5月7日現在、国連人道問題調整事務所による）。

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

- (O) GEONETによる全国の地殻変動（水平）（3か月）

要旨：GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近3か月間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GEONETによる2期間の地殻変動ベクトルの差

要旨：最近3か月間の水平方向の地殻変動について、1年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

- (O) GEONETによる全国の地殻変動（水平）（1年）

要旨：GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近1年間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GNSS連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨：GNSSデータから推定した日本列島の最近1年間のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

- (O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積変動の概況を報告する。

- (O) GNSS連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本におけるGNSS連続観測の時系列の概況を報告する。

- (O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

- (S) 電子基準点の上下変動（5基線）

- (S) 電子基準点の上下変動 GNSS連続観測

- (S) 駿河湾周辺 GNSS連続観測時系列

- (S) 東海地方の非定常地殻変動

- (O) 東海地域の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2022年初頭から静岡県西部から愛知県東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動をGNSSで観測したので、その概況を報告する。

- (S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 GNSS連続観測

- (S) 南海トラフ周辺 GNSS連続観測時系列

- (S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動

- (O) 紀伊半島南部の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）
要旨：2020年初頭頃から紀伊半島南部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動をGNSSで観測したので、その概況を報告する。
- (O) 四国中部の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）
要旨：2019年春頃から四国中部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動をGNSSで観測したので、その概況を報告する。
- (S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 GNSS連続観測
【2024年8月8日に発生した日向灘の地震に伴う地殻変動】
- (O) 地殻変動ベクトルとGNSS連続観測時系列
要旨：日向灘の地震における余効変動をGNSSで観測したので、その概況を報告する。
- (O) 余効すべり
要旨：余効すべりの概況を報告する。
- 4. その他の地殻活動等
 - (S) 北海道太平洋岸 GNSS連続観測時系列
 - (S) 関東周辺 GNSS連続観測時系列
【2025年4月18日に発生した長野県北部の地震】
 - (S) 地震前後のGNSS連続観測データ
【令和6年能登半島地震】
 - (O) 地殻変動ベクトルとGNSS連続観測時系列
要旨：令和6年能登半島地震における余効変動をGNSSで観測したので、その概況を報告する。
【2025年4月2日に発生した大隅半島東方沖の地震】
 - (O) 地殻変動ベクトルとGNSS連続観測時系列
要旨：地震前後のGNSS連続観測の解析結果を報告する。
【2025年3月28日に発生したミャンマーの地震に伴う地殻変動】
 - (O) 「だいち2号」によるSAR干渉解析結果
要旨：だいち2号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

【5】東京大学地震研究所

4. その他の地殻活動等

【令和6年能登半島地震】

- (O) 海底地震計を用いた令和6年能登半島地震の海域余震観測

要旨：令和6年能登半島地震の海域余震観測を、海底地震計を用いて約1年間実施した。震源決定の結果、余震発生領域については本震直後の解析結果と調和的である。

【6】東京科学大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

要旨：主な深部微動活動として、2月1日～4日に豊後水道、2月23日～25日に四国中部、3月25日～29日に四国東部、4月22日～25日に豊後水道での活動が検知された。4月27日からは紀伊半島南部から北部での活動が検知されている。

(S) 南海トラフ周辺における最近の傾斜変動

【13】産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果（2025年2月～2025年4月）

(S) 紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果（2025年2月～2025年4月）

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント（2025年2月～2025年4月）

4. その他の地殻活動等

(S) 神奈川県西部地域の地下水位観測（2025年2月～2025年4月）

(S) 岐阜県東部の活断層周辺における地殻活動観測結果（2025年2月～2025年4月）

(S) 近畿地域の地下水・歪観測結果（2025年2月～2025年4月）

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化（2024年11月～2025年4月）

【14】海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

(S) 日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

【15】海洋研究開発機構

【16】その他の機関

記載分類

(O) 口頭報告, (S) 資料提出のみ

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

b. 地殻変動

2. 東北地方太平洋沖地震関連

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

d. その他

4. その他の地殻活動等

5. 地殻活動の予測実験